

皆様、こんにちは。
 摂食嚥下チームの齋藤(薬剤師)です。
 今回は摂食嚥下における薬剤師の役割についてお話ししたいと思います。
 お薬が適切に飲み込めるように、主に2点についてサポートしています。





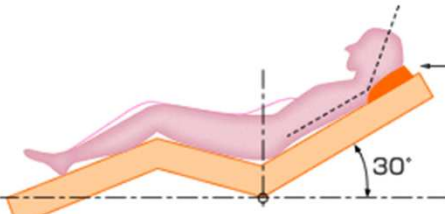

摂食嚥下における薬剤師の役割

- ① 嚥下機能に影響を及ぼす薬剤の抽出と代替薬の提案
- ② 剤形変更の提案やお薬の服用方法。



今回は②剤形変更の提案やお薬の服用方法についてお話しします。口からお薬を飲む時に、嚥下障害があると誤嚥したり、薬が食道や胃に残留したり、胃食道逆流が起こりやすくなります。対策としては、以下のようになります。



<p>薬剤の選択</p>	<p><u>飲みやすい形状や回数にする</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい錠剤 (カプセル剤は残留の可能性があるので、避ける) ・投与回数の少ない薬 ・貼付剤、坐薬、吸入剤 ・口腔内崩壊錠 
<p>内服の方法</p>	<p><u>飲みやすい方法にする</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・粥などと一緒に食事中に飲む ※食事で吸収が悪くなる薬もあります。 ・ゼリーやプリンに包む ・オブラートに包む (苦味健胃薬はダメ) ・服用後に水やトロミ水を飲む 
<p>体勢の工夫</p>	<p><u>上を向かないで薬を飲む工夫をする</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクライニング位 (図1) ・首を前屈させて飲む ・鼻の部分をカットしたコップを使う (図2) <div data-bbox="470 1422 1372 1691"> <p>図1 リクライニング位での服用</p>  <p>頸部前屈：リラックス 頭に枕をつかって頸部を前屈し、頸部全体がやや前方に突出するようにする</p> <p>藤島一郎監修、倉田なおみ執筆 内服薬 経管投与ハンドブック 第2版 P.79 じほう</p> </div> <div data-bbox="470 1758 1428 2105"> <p>図2 鼻の部分をカットしたコップを使用する</p>  <p>カットする</p> <p>藤島一郎監修、倉田なおみ執筆 内服薬 経管投与ハンドブック 第2版 P.79 じほう</p> </div>



お薬を飲む時に不安のある方は薬剤師にご相談下さい

